地域安全ニュース かみ

No.172

香美地区地域安全協会
地域安全アドバイザー　登淳賀
（南国警察署香美警察庁舎内）
☎／FAX　53－1855

７月は「青少年の非行・被害防止全国強調月間」です！

子どもたちに健やかに育ってほしい。それは家族や周りの大人、社会全体の願いです。しかし、家庭や学校、地域社会など、子どもを取り巻く様々な環境の中で、ささいなキッカケで非行に走ったり、犯罪の被害にあったりする子どもも少なくありません。

青少年を非行や犯罪被害から守るために、大人は何をすればよいのか考えてみましょう。

◆ネットの危険

携帯ゲーム機やスマートフォンを使って簡単にネットに『つながる』ことができる便利な時代になった反面、トラブルに巻き込まれる子どもも増えています。お子さんのスマートフォン等の利用状況の把握、フィルタリングの活用、家族でのルール決めなどしましょう。

◆非行や犯罪被害

夕方遅くまで、外出していると危険がいっぱいです。夏は、お祭りやイベント等出かけることが多いですが、子どもだけで夜遅くに外出しないように門限を決めましょう。

◆誘拐被害防止

子どもに、自分を守る知識を身につけさせましょう。知らない人には、ついていかない、少しでも怪しいと思えば、すぐに逃げるよう話し合いましょう。

注意と対策

子どもたちを、非行や犯罪から守るためには、家庭での会話や団らんといった、ふれあいがとても重要になってきます。家庭の中に子どもの心の居場所作りを心がけてみましょう。

少年のインターネット利用に関する犯罪被害、非行、家出、いじめ等の相談対応は、
警察少年相談電話（ヤングテレホン）
☎０８８－８２２－０８０９

令和かわら版

南国警察署交通課
高齢者アドバイザー　坂本扶左
☎５２－０１１０（香美警察庁舎）

休憩はお早めに！

運転中に少しでも疲れや眠気を感じたら、無理に運転を続けるのは大変危険ですので**絶対にやめましょう。**

高速道路ではサービスエリアやパーキングエリア、一般道では駐車場等の安全に駐車できるところに車を止めて休憩をとりましょう。

夜間の事故に注意！

夜間は、昼間に比べて視界に入ってくる情報量が大変少なく、また、疲労の度合いが高まることで、注意力が落ち判断ミスも増えます。特に深夜から早朝にかけては、居眠り運転や漫然運転による事故が多発する傾向にあります。

夜間、車を運転する際は、昼間と同じ感覚での運転を避け、速度を抑え、車間距離を十分に取るなどして、慎重な運転を心掛けましょう。

※夜間、歩行時は反射材を身に付けましょう！

図書館だより

市立図書館

◆青少年読書感想文全国コンクール課題図書

本館と香北分館では課題図書の貸出を行っています。

本館では小学生・中学生・高校生向けの図書を、香北分館では小学生・中学生向けの図書を貸し出します。

読書感想文コンクールにチャレンジしてみませんか。

◆声の広報貸し出します

図書館では『広報香美』音声訳版ＣＤの貸出を行っています。

視覚障害者の方が広報の情報を入手できるよう、バックナンバーも含めてご用意、ＣＤの音声データはＤＡＩＳＹ（デイジー）規格に準拠しています。

必要とされている方は、ぜひご相談ください。

◆本の取り寄せできます

市立図書館に所蔵されていない本でも、オーテピア高知図書館など、市外の図書館から取り寄せて貸し出すことができます。

県内の図書館が所蔵する多くの本から読みたい本を選べるサービスです。

ぜひご利用ください。

【問い合わせ先】
本館　☎53・0301
香北分館　☎59・4550

読書リレー No.006

香美市役所
笹岡恵里さんのオススメ

杉原爽香、４６歳の秋
「黄緑のネームプレート」
赤川次郎　著

明るくて頑張り屋の主人公(爽香)が、周囲で起こる事件や問題を解決し、自身も成長していくシリーズの最新作です。毎年一冊の刊行に合わせて登場人物も一歳ずつ年を重ね、第一冊目で１５歳だった爽香は現在４６歳です。事件だけでなく仕事や家庭でも一生懸命に奮闘する姿に元気と勇気をもらえます！

Pick Up

べらぼうくん
万城目学　著

「万城目ワールド」と称される奇想天外な物語で、読者を魅了する、作家デビュー前の痛々しくも不思議と心が和んでくる温かなエッセー作品。

梅と水仙
植松三十里　著

江戸から明治、全てが瓦解（がかい）する時代の大きなうねりの中で、津田塾・青山両大学の創設に関わった津田梅子とその父・仙の生涯に焦点を当てた作品。

香美市森林環境税活用事業

かみんぐBABY 木のギフト

若手職員がなんと山林購入！その思いは？

今回は、番外編として香美森林組合の若手職員を紹介します。

木材価格の下落で山林への関心が薄れる中、森林組合の若手職員の行動が周囲を驚かせています。その人は県立林業大学校を卒業後、香美森林組合に就職し、４年目を迎えた大岸卓也さん(２５)です。大岸さんは昨年、貯めたお金で山林を購入し、休みの度に現地に通っています。

大岸さんの配属先は、木を植え、下刈りをして苗木を育てる造林班でした。仕事に少し自信がついた頃から、大岸さんは「自分の山で試してみたい」と考えるようになったそうです。また、自ら植え、育てることで補助制度の仕組みを理解したいとの思いもありました。

大岸さんは今、購入した山で地拵(じごしら)えを続けています。木を植える準備作業です。「班でやるとすぐ終わるのに、一人やと大変」。とはいえ、自分の考えで作業できることが楽しく、「地拵えが終わったら、クヌギやスギの植え付けをして、ゆくゆくは搬出間伐までを自分の手でやってみたいんです」と、描いたビジョンを熱く語ってくれました。

また、仕事に対する意識にも、大きな変化があったようです。「今までは教えられたことをやるだけだったが、自分の山を手入れしている感覚で取り組めるようなった」とのこと。森林所有者の気持ちになって、日々の仕事に向き合っています。　そして、何故そうするのかの“気付き”が断然増え、これを自身の山づくりにフィードバックしようとしています。

かつて森林組合の職員は、頼まれて山林を購入し植林することもありました。それは30年も４０年も前のことです。今回の大岸さんの山林購入は、周囲を大いに驚かせる新しい森の担い手の決断と実行でした。組合の仲間は、熱心な彼の山づくりを期待を持って見守っています。